

令和元年 保育士試験(後期)及び
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 の 心 理 学

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB~B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) … ● (濃くマークすること。はみだしは厳禁)

(悪い例) … ○ ● ⊗ ⊘ ⊚ ⊙ ⊛ ⊜

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次のA～Eのうち、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」2「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」(2)「ねらい及び内容」エ「言葉」の一部として、正しい記述を○、誤った記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 親しみをもって日常の挨拶に応じる。
- B 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- C いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- D 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。
- E 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	○	○
2	○	×	○	○	×
3	○	×	×	○	○
4	×	○	○	×	×
5	×	○	×	×	○

問2 次の文において、ピアジェ (Piaget, J.) 理論とその後の展開として (A) ～ (D) の用語が適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ピアジェの理論に基づく (A 社会的構成主義) では、子どもが活動を通して知識を構成していくという能動性を重視する。主に物理的環境との相互作用を中心とする子ども個人の知的構成の理論である。発達主体はあくまでも子ども自身である。子どもの内的な枠組みである (B シェマ) と環境が与える情報とのズレを解消することで認知発達が促される。これを (C 同化) と呼ぶ。

ある発達段階に到達した子どもは、物理的事象でも社会的事象でも、共通した思考が適応できるとされ、領域一般性と名付けられた。しかしその後、領域によって発達の様相が異なることが多くの研究から明らかになってきた。これは (D 領域特殊性) と呼ばれる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	×	○

問3 次の文は、ヒトの出生時の特徴についての記述である。(A) ~ (E) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

哺乳類は、生まれた時は未熟で自分の力で動きまわることのできない (A) のものと、生まれた時からすでに成熟していて自力で移動することのできる (B) の二つに分類することもできる。ヒトの場合は、胎児期から音声に反応して母親の声を聞き分けるなど、感覚や知覚の能力を有するが、運動能力が未発達な状態で生まれてくることから、(C) はこれを二次的 (A) と呼び、(D) という考え方で説明した。つまり、人間は脳の発達が著しいため、十分な成熟を待って出産することは体の大きさの問題から難しく、約 (E) 早く未熟な状態で生まれるといわれている。

【語群】

ア ローレンツ (Lorenz, K.)	イ 2年	ウ 離巢性	エ 生理的早産
オ 就巢性	カ ポルトマン (Portmann, A.)	キ 放巢性	
ク ハーロウ (Harlow, H.F.)	ケ 帰巢性	コ 身体的早産	サ 1年

(組み合わせ)

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 1 | オ | ウ | ア | エ | イ |
| 2 | オ | ウ | カ | エ | サ |
| 3 | オ | キ | ア | コ | イ |
| 4 | ケ | ウ | ク | エ | サ |
| 5 | ケ | キ | カ | コ | サ |

問4 次の記述に該当する理論として正しいものを一つ選びなさい。

ギブソン (Gibson, J.J.) が提唱した知覚理論であるが、より発展的に生態学的な立場から知覚の機能を論じている。それによれば、人は環境内にある情報を知覚し、それによって行動を調整していると考えている。例えば、いつも入り口が開いている部屋で保育をしていると、室外に出て行く子どもがみられるが、入り口を閉めておくと、室外へ出ていくことが少なくなる。このような子どもの行動は、環境によって適応的なものとなっている。

- 1 アニミズム論
- 2 生態学的システム論
- 3 自己実現論
- 4 アフォーダンス論
- 5 発生的認識論

問5 次の文は、生活や遊びを通した学びに関する記述である。【I群】の記述と、【II群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【I群】

- A 相手の行動を観察し、その人の意図、期待、信念、願望などを理解するようになると、相手の行動を説明したり、予測したりするようになる。
- B 文化的に規定され、ステレオタイプ化された知識で、日常的なできごとを理解したり解釈したりできるようになる。
- C 内発的動機づけを構成する要素で、自分の知らないことに興味をもったり、興味をもったものを深く探究したりしようとする。
- D ある行動をすると、特定の環境変化が引き続いて生じることに気付いて、その行動を繰り返し行うようになる。

【II群】

ア 帰属理論	イ 心の理論	ウ モニタリング	エ スクリプト
オ 知的リアリズム	カ 知的好奇心	キ 観察学習	ク オペラント学習

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | ア | ウ | オ | キ |
| 2 | ア | エ | オ | ク |
| 3 | イ | ウ | カ | キ |
| 4 | イ | エ | オ | ク |
| 5 | イ | エ | カ | ク |

問6 次の乳児期の発達に関する記述のうち、下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 新生児が、大人の話しかけに同期して自分の体を動かすクーイングと呼ばれる現象が報告されている。
- B 新生児が数人いる部屋で、一人が泣きだすと、他の新生児も泣きだすことがよくみられる。この現象は社会的参照と呼ばれる。
- C 乳児の身体に比して大きな頭、丸みをもった体つき、顔の中央よりやや下に位置する大きな目、といった身体的特徴は幼児図式と呼ばれ、養育行動を引き出す効果があると考えられている。
- D 乳児は特定の人との間にアタッチメント（愛着）を形成し、不安や恐れが感情が生じるとその人にしがみつくと、あるいはくっついていようとする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問7 次のA～Dのうち、学童期の発達についての記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 低学年では、具体的な事物については論理的思考ができるようになる。また、不特定多数の聞き手を意識して発言することが求められるようになる。
- B 中・高学年になると、特定の仲間と排他的ではない集団を作って行動することが増える。また、同時に仲間よりも大人からの承認を求めるといった特徴がみられる。
- C 学校生活の中では、自己概念は現実的で複雑になるため、社会的比較をすることにより劣等感を抱いたり、自尊心が低下したりすることがある。
- D 学童期は、学年が上がるとともに記憶のための方略が多様化し、自分の思考を振り返るメタ認知能力が発達していく。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	×	○	×
5	×	×	×	○

問8 次のA～Dのうち、幼児期の他児との関わりに関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A 1歳児クラスでは、他児が物を使い始めると、それを見て自分も使いたくなり、物のやりとりや取り合いが生じる。

B 幼児期を通して、物をめぐるいざこざは日常的に生じるが、その対応や解決の方略は年齢によって変容していく。

C 幼児期を通して、他児たちが遊んでいる場面で、仲間に入れてもらうためには、「入れて」と言えることが必須である。

D 5歳になると、遊びの目的を共有し、自分たちで工夫してルールのある遊びを楽しむ姿、より面白くなるようにルールを作り替える姿がみられるようになる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	×	×	○
5	×	×	×	×

問9 次の文において、集団への関わりとして（A）～（D）の語句が適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

レイヴとウェンガー（Lave, J. & Wenger, E.）は、（A 師弟制度）のように参加を通して学ぶことを（B 「伝統的参加学習」）と呼び、そのプロセスに多くの学びが発生する可能性があることを指摘した。

この論を踏まえて、幼児の集団への関わりについて解釈を試みると、保育所に途中入所してきた幼児は、その園では（C 新参者）であるが、活動や場にその子なりに参加する。少し離れたところから同じクラスの幼児たちの遊び方を観察したり、共同的行為のなかで自分にもできる（D 役割）を担ったりする中で、次第に園での過ごし方、生活や遊びの理解、そこでの人間関係など、多くのことを学んでいく。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問10 次のA～Dのうち、保育における発達援助に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 小学校との連携では、遊びを主導的活動として展開する幼児期の生活と、学習を主導的活動として展開する児童期の教育とを、双方で内容的・方法的に工夫することによって接続を図る。
- B 保育所の生活の中で協同遊びの経験を積み重ねておくことは、小学校における協同的な学びにつながっていくものである。
- C 保育所保育を小学校教育への準備段階として捉えるのではなく、幼児期の教育と小学校の教育を相互に理解し、生かしあう視点をもつことが大切である。
- D 一人一人の子どもに「どのような」支援や配慮が必要となるかについて、保育所で今までに蓄積された情報を保育所幼児保育要録として小学校に送付することが「保育所保育指針」に記されている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問 11 次の A～Dのうち、成人期・高齢期の特徴に関する記述として、適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 成人期では、子どもの巣立ちや老親介護などを通して心理的变化に直面しやすく、時として人生の転機となり、アイデンティティの再構築がみられることがある。
- B 知能には、加齢の影響を受けやすいものと受けにくいものがあり、結晶性知能は成人期以降減衰するが流動性知能は高齢期でも低下しにくい。
- C 身体機能は、加齢に伴い程度の差はあるものの少しずつ低下する。聴覚では母音、低音域の音、ゆっくりしたテンポでの聞き取りづらさを感じる人が多くなる。
- D 高齢期には、加齢による変化に対処しながら自分の特徴を最大限に活かすなど、幸福に年齢を重ねることをサクセスフル・エイジングと呼ぶ。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | ○ | ○ | × |

問 12 次の 1～5のうち、子どもの遊びと運動に関する記述として不適切なものを一つ選びなさい。

- 1 運動能力には、筋力や持久力などの運動体力と、視聴覚や筋運動感覚などの知覚を手がかりに運動をコントロールする能力がある。この運動コントロール能力が急激に発達するのは幼児期から児童期である。
- 2 幼児期は、走る、跳ぶ、登る、くぐるなど多様な動きをする遊びよりも、特定の動きを繰り返す運動の方が身体の発達に効果がある。
- 3 近年、地域や家庭において、戸外での遊びの面白さに気づかないまま、室内の遊びに偏りがちな子どもも少なくない。
- 4 保護者に運動習慣がある家庭の幼児は、そうでない家庭の幼児よりも戸外遊びを多く行っているという報告がみられる。
- 5 運動が得意な幼児は、普段一緒に遊ぶ仲間の数が多く、仲間関係が良好で、協調性が高いなど社会性が発達していることが多い。

問13 次の文は、感情と自己に関する記述である。(A) ~ (D) にあてはまる用語を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 子どもは遊びの中で、思うように自分を表現したり、自分の力でやり遂げたりできることに自信を持ち、(A) を感じるようになる。
- ・ 幼児は、ごっこ遊びを通してお母さんやヒーローのように、自分にはできないことができる人にあこがれ、(B) し、自分の中に取り込む。
- ・ 自分も使いたかった一つしかないおもちゃを貸してあげるといった(C) が起こるためには、仲間の考えや感情を理解し、相手と同じ感情を自分も共有することができることを必要とする。
- ・ 自分の世界を持ち始めると、自分がしていることやしたことを「見て、見て」と他者に訴えるようになる。他者の視線を自分に集めて(D) し、自己を拡張していく。

【語群】

ア 自己高揚	イ 自己肯定感	ウ 向社会的行動	エ 自己顕示
オ 他律的行動	カ 自己制御感	キ 社会化	ク 同一視

(組み合わせ)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D |
| 1 | イ | キ | ウ | ア |
| 2 | イ | ク | ウ | エ |
| 3 | カ | キ | オ | エ |
| 4 | カ | ク | オ | ア |
| 5 | カ | ク | オ | エ |

問 14 次の文は、自己に関する記述である。【Ⅰ群】の記述と【Ⅱ群】の用語を結びつけた場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 幼児に気付かれないように鼻の頭に口紅をつけておく。その後その子どもに鏡を見せた時、子どもが鏡の像ではなく、自分の鼻を触るかどうかを基準として判断する。
- B 乳児が自分の手や足の指をしゃぶったり触ったりして得られる感覚は、物をしゃぶったり触ったりした時に生じる感覚とは異なることに気付く。
- C 青年は「自分は他者と違って自分である」という感覚と、「自分はいかに自分になってきたか」という感覚を、問い直す。
- D 「そうなりたい自分」と「そうである自分」とのズレや不一致の程度によって、その人の適応をあらわしているとされる。

【Ⅱ群】

ア 自己実現	イ 自己認知	ウ 身体的自己
エ 自己開示	オ モラトリアム	カ アイデンティティ
キ 現実自己・理想自己	ク 私的自己・公的自己	

(組み合わせ)

- A B C D
- 1 ア ウ オ キ
- 2 ア ウ カ ク
- 3 ア エ オ ク
- 4 イ ウ カ キ
- 5 イ エ オ ク

問 15 次の【事例】を読んで、以下の【設問】に答えなさい。

【事例】

砂場で、一度に4個ずつケーキが作れる容器を使って遊んでいたG君（3歳、男児）。砂を容器に入れて、ベンチの上に引っくり返しては、ケーキの形ができることを繰り返し楽しんでいった。

保育士が「そろそろ給食だから、お片付けだよ。」と声をかけると、G君は「やだ、もっと作る。」と言った。そこで保育士は、「ケーキ、あと何個作ったらおしまいにできるかな。」と尋ねると、「あと、50個。」と応えるG君。「じゃあ、急いで50個作ろう。」と保育士が言うと、急いで何度も繰り返した。そして、ケーキを保育士が食べる真似をして、「ごちそうさまでしたあ。」と言って、ベンチの上の砂を落とした。再び、ケーキを作るG君。同様のやりとりを数回繰り返した後、G君は自ら使っていたケーキの容器をカゴにポンと戻した。

【設問】

次の文のうち、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

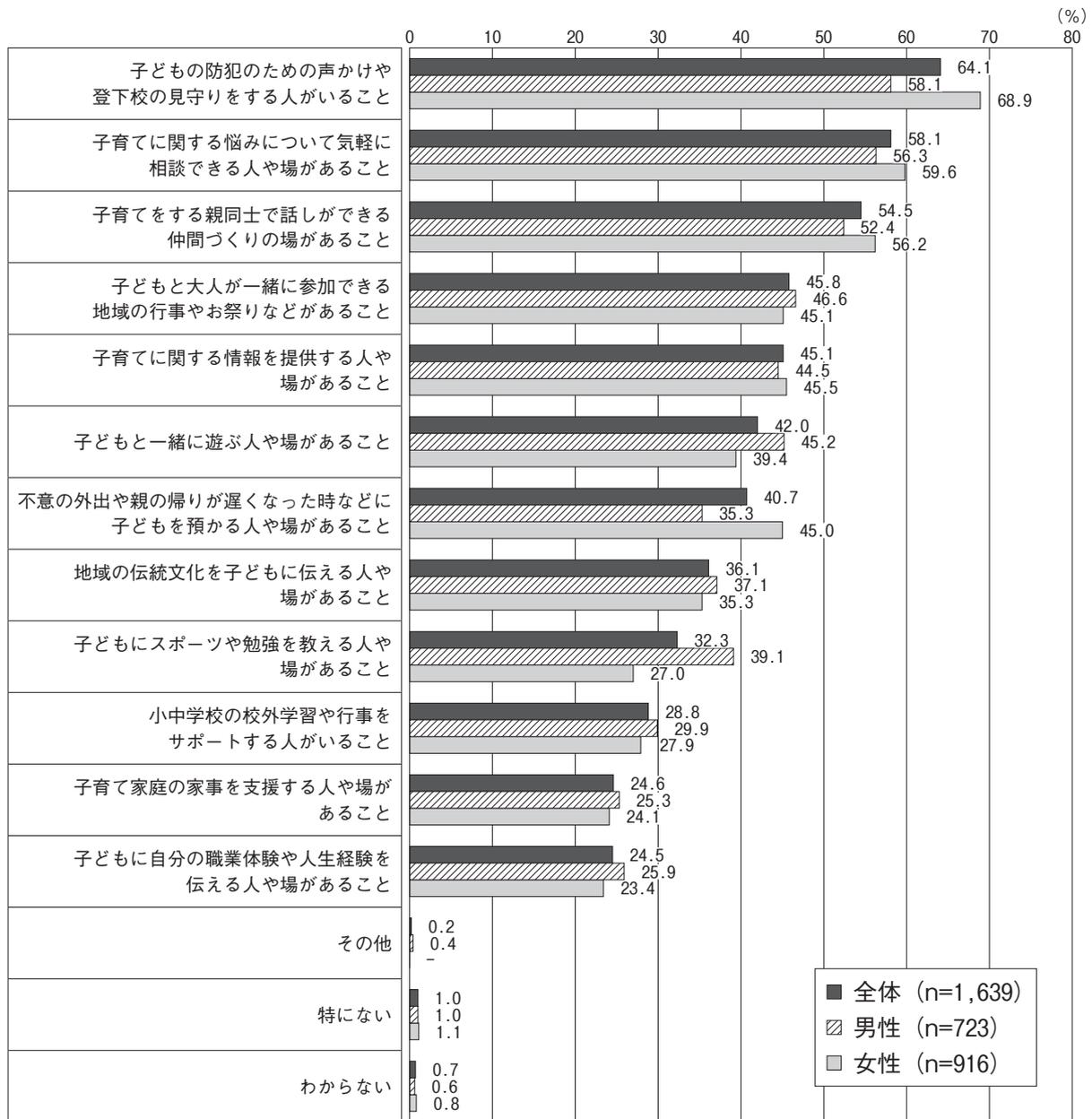
- A G君は、片付けに取り組む前に、自分の遊びの世界を受け止めてもらっていた。
- B 保育士は、子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもが納得して片付けに取り組むよう援助した。
- C G君は、やりたいことを十分に実現して、主体的に片付けるという経験をした。
- D 保育士は、子どもが遊び続けることよりも、片付けを優先させていた。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	○

問 16 次の【図】は、「家族と地域における子育てに関する意識調査」（平成 25 年 内閣府）の質問項目「地域で子育てを支えるために重要なこと」に対する一般成人（20～79歳）の回答を示したものである。以下の【設問】に答えなさい。

【図】 地域で子育てを支えるために重要なこと（複数回答）



【設問】

次の（ A ）～（ E ）のうち、【図】を説明する文として適切なものを○、不適切なものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

地域で子育てを支えるために重要なこととしては、（A 「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」）が全体として6割以上で最も多くあげられ、次いで（B 「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」）となっている。

男女別にみると、女性が男性より多くあげているのは、差の大きい順に「子どもの防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」や（C 「不意の外出や親の帰りが遅くなった時などに子どもを預かる人や場があること」）等である。また、男性が女性より多くあげているのは、差の大きい順に（D 「子どもと一緒に遊ぶ人や場があること」）（E 「子どもにスポーツや勉強を教える人や場があること」）等である。

（組み合わせ）

	A	B	C	D	E
1	○	○	○	×	○
2	○	○	○	×	×
3	○	×	×	○	○
4	×	○	×	○	○
5	×	×	○	○	×

問 17 次の文は、親のうつ病についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 出産の可能性のある年齢の女性において、うつ病の発症率は2%以下である。
- B 親がうつ病の子どもは、そうでない子どもに比べて、気分障害やその他の精神的な問題や機能障害が少なくとも3倍以上生じやすくなる。
- C 低出生体重児の出生や、NICU入室などによる長期の母子分離は、産後うつ病の危険因子ではない。
- D 父親のうつ病が、子どもの社会・情緒的発達に影響を与えるとの証拠や研究はない。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	×
5	×	×	×	×

問 18 次の文は、夫婦間葛藤と離婚についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 夫婦間葛藤は、さまざまな領域に及ぶ子どもたちの情緒行動の問題と関連している。
- B 親が離婚した子どもは、していない子どもに比べて、行動の問題、学業不振、仲間関係の問題などを含むさまざまな否定的影響を経験するが、それらが成人まで持続することはまれである。
- C 夫婦間葛藤が激しい場合、離婚しても子どもの情緒的安定はあまり変化しないか、穏やかな改善がみられることが多い。
- D 母親との別居後に父親（反社会的でない父親）が、子どもにより多く関わると、子どもの社会・情緒的発達にネガティブな影響が生じる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	×

問 19 次の A～Dのうち、児童への心理的虐待に関する記述として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 児童が大切にしているものを、親が傷つけたり捨てたりするとおどす。
- B 児童の前で父親が母親に暴力をふるう。
- C 児童に自分自身を傷つけるよう強要する。
- D 児童に他者の性的満足をもたらす行為に関わるよう強要する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	○	×	×
4	×	×	○	×
5	×	×	×	○

問 20 次のA～Dのうち、心理・社会的逆境（貧困、両親間の葛藤、親との死別、戦争など）についての記述として、適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 収入のレベル及び社会の富裕層と貧困層の相違の程度は、いずれも精神的身体的健康と関係していると考えられている。
- B 持続的に食料確保が不安定な子どもは、そうでない子どもと比べて、問題行動、衝動性など反社会的行動をとる可能性が約2倍になると言われている。
- C 貧困は、親の養育の質を低めることを介して、子どもの心理・社会的発達に影響を与える可能性が高い。
- D 児童期に多数の心理・社会的逆境を経験した大人ほど、何も逆境体験がなかった場合と比較して、肺気腫、慢性気管支炎や心筋梗塞などの虚血性心疾患の罹患率が高くなると言われている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	×